

清野和夫先生(岩手医科大学歯学部3期卒)が、平成28年度より務められていた奥羽大学学長を任期満了につきこの度ご勇退されました(令和4年3月31日付け)。

学長を務められていたこの6年間は、学問の府の長としてだけでなく、東日本大震災後の東京電力福島第一原子力発電所の問題、新型コロナウイルス(COVID-19)感染症の対応、福島県沖を震源とする大きな地震の続発など、次々と大きな諸問題への対応にご苦労されました。たいへんにお疲れ様でした。

今後とも本学歯学部同窓会へのご助言をいただけますようお願い申し上げます。

### 清野和夫先生ご略歴

- 昭和48年 岩手医科大学歯学部卒業
- 同年48年 岩手医科大学歯学部助手任用
- 昭和56年 同上 講師
- 昭和57年 同上 助教授
- 平成44年 奥羽大学歯学部教授
- 平成18年 奥羽大学歯学部附属病院長
- 平成23年 奥羽大学大学院歯学研究科長
- 平成28年 奥羽大学学長就任

## 奥羽大 清野学長、退任へ

奥羽大の清野和夫学長(七)は任期満了に伴い三月三十一日で退任する。二〇一六(平成二十八)年四月から三期六年にわたって学長を務めた。清野氏は岩手県一関市出身。岩手医大歯学部卒。同学部助教授から一九九二年に奥羽大歯学部教授に就任し、歯学部付属病院長、大学院研究科長、事務局長などを歴任した。

### 教育改革に一定の道筋

#### 清野学長に聞く



退任する清野和夫学長は福島民報社の取材に応じ、教育改革の推進を任中の成果に挙げた。「三期六年を振り返って。」「学長に就任した二〇一六年度に大学の認定評価機関・日本高等教育評価機関の大学機関別認証「県内は歯科医師の数が多いといわれた時期もあったが、開業医の高齢化が進んでいる。後継者不在で廃業する医療機関もある。地域にしっかりと根付き、活躍する人材育成に一層、力を入れる必要がある」

学長としての6年を振り返る清野氏

「思いやりを持ち、人間性豊かな医療人を目指してほしい。相手が何を望んでいるのか、素早く気付けるかどうかが大切だ」

評価を受けた。教育・研究で機構が定める基準を満たすなど、六年間を通じて学内の教育改革に一定の道筋を付けることができた」

「歯科医師、薬剤師を養成する大学として目指すべき姿は。」「県内は歯科医師の数